



根の国

根の国を訪れた大國主命は、須佐之男命の娘須勢理毘売に会ったとたん、二人は好きになりました。そこで須佐之男命から次々と大きな試練を受けることになりました。しかし、その度に毘売が命に力を貸してくれたのです。

蛇のうじやうじやいる部屋で寝かされた時、毘売の渡してくれた布を三回振ると蛇は静かになりました。蜂と百足の部屋に閉じ込められた時も、布を振ることで、ゆっくり眠れました。

須佐之男命は、更なる試練を与えました。鳴鏑という矢を野に放ち、取って来るよう命じた上で火を放ったのです。すっかり火に囲まれてどうすることもできません。すると『内はほらほら、外はすすぶ。』と歌う声と共に鼠が現れ、命を安全な穴に迎え入れてくれたのです。火が鎮まって後、命は矢を持って須佐之男命の許に向かいました。

須佐之男命は、最後に自分の頭の虱を採るように言いつけました。見ると大きな百足がいっぱい這い回っていて、それどころではありません。そこで毘売の渡してくれたムクの実と赤土を嚙んで吐き出し、百足を採っていると、思い込ませる事に成功しました。

*「内はほらほら、外はすすぶ。」
外はすばまっているが、内はがらんだ穴であるという意味。